



2025 年 11 月 13 日

各 位

会 社 名 ラクサス・テクノロジーズ株式会社
代 表 者 名 代表取締役社長執行役員 高橋 啓介
(コード番号：288A 東証グロース市場)
問 合 せ 先 取 締 役 執 行 役 員 中 尾 聡 志
(TEL 082-236-3801)

**2026 年 3 月期第 2 四半期（中間期）業績予想と実績との差異並びに
剰余金の配当（中間配当無配）及び期末配当予想の修正（無配）に関するお知らせ**

2025 年 5 月 13 日に公表しました 2026 年 3 月期第 2 四半期（中間期）業績予想と本日公表の同期実績との差異について、下記のとおりお知らせいたします。

また、本日開催の取締役会において、2025 年 9 月 30 日を基準日とする剰余金の配当を行わないこと及び期末配当予想の修正（無配）を決議いたしましたので、併せてお知らせいたします。

1. 2026 年 3 月期第 2 四半期（中間期）業績予想と実績との差異について

(1) 2026 年 3 月期第 2 四半期（中間期）業績予想と実績との差異（2025 年 4 月 1 日～2025 年 9 月 30 日）

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	中 間 純 利 益	1 株 当 た り 中 間 純 利 益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前 回 発 表 予 想 （ A ）	1,321	93	103	59	2.81
実 績 値 （ B ）	1,093	51	57	46	1.81
増 減 額 （ B － A ）	△228	△42	△45	△12	
増 減 率 （ % ）	△17.3	△45.1	△44.3	△21.6	
(ご参考) 前期第 2 四半期実績 (2025 年 3 月期第 2 四半期)	1,284	338	337	283	14.83

(2) 業績予想の差異の理由

上期売上高につきましては、新規サービス「ShaaS」※の提供開始時期が遅延したこと、また、広告投下に対する効果の発現が想定よりも遅れたこと等により、新規獲得契約数が計画を下回り、当初予想に未達となりました。

利益面においては、販売費及び一般管理費を想定より抑制したものの、減収に伴う売上総利益の減少を補うには至らず、営業利益、経常利益及び中間純利益は当初予想を下回って推移いたしました。

なお、下期につきましては、上期からずれ込んだ「ShaaS」の本格展開や上期に投下した広告費の効果発現が見込まれることに加え、月額払いのブランドバッグスマートキープサービス「Lax-mochi（ラクモチ）」の開始により、売上高の回復が見込まれます。これに伴い、下期の業績は当初計画を上回る見通しであり、通期の業績予想につきましては、前回公表値を据え置きます。今後、業績予想の修正が必要と判断される場合には、速やかに開示いたします。

※ShaaS(Sharing as a Service)とは、当社が持つシェアリングサービス機能を外部にOEM提供するサービスであり、提携企業の顧客基盤を活用して新たな収益源を確保するビジネスモデルです。

2. 剰余金の配当（中間配当無配）及び期末配当予想の修正（無配）について

(1) 剰余金の配当（中間配当）の内容

	決 定 額	直近の配当予想 (2025年5月13日公表)	前期実績 (2025年3月期中間)
基 準 日	2025年9月30日	同左	2024年9月30日
1株当たり配当金	0円00銭	未定	0円00銭
配当金総額	—	—	—
効力発生日	—	—	—
配当原資	—	—	—

(2) 期末配当予想の修正について

	1株当たり配当金		
	第2四半期末	期 末	合 計
前 回 予 想 (2025年5月13日公表)	未定	未定	未定
今 回 修 正 予 想		0円00銭	0円00銭
当 期 実 績	0円00銭		
前 期 実 績 (2025年3月期)	0円00銭	0円00銭	0円00銭

(3) 修正の理由

当社は、株主に対する利益還元を経営上の重要課題の一つであると認識し、将来の事業展開と経営基盤の

強化のために必要な内部留保を確保しつつ、安定した剰余金の配当を実施していくことを基本方針としております。一方で、当社は、未だ成長局面にあるため、内部留保の充実を優先し、事業規模の拡大、収益の向上を図り、企業価値の最大化をさせることが、より適切な株主還元になり得るものと考えており、創業以来配当を実施しておりません。

2026年3月期の配当予想に関しまして、中間配当を未定としておりましたが、配当の原資となる利益剰余金が依然としてマイナスの状況（2025年9月30日時点）であるため、2025年11月13日開催の取締役会において無配とすることを決議いたしました。また、期末配当予想については、今後の安定的な経営のために手元資金を確保し、内部留保の充実を図ることが最重要課題であると考え、現状の業績数値や今後の業績見通しを総合的に勘案し、誠に遺憾ながら無配といたします。

以 上